

澁谷審議官によるブリーフィングの冒頭発言

日時：5月13日（火）18時40分～

場所：合同庁舎8号館

シンガポール閣僚会合について、シンガポール政府から発表された。また、リム大臣から甘利大臣宛ての正式な招待状をいただいたので閣僚会合の開催が正式に決定された。後程、シンガポールにおける取材登録について事務的にご連絡するので、シンガポールで取材をされる方があればご登録をお願いしたい。

昨日から始まっている首席交渉官会合は現地時間9時45分から開始された。初めは、オープニングセッションとして特定のチャプターではない今後の進め方についての議論を行い、10分の休憩を挟んで11時15分から労働の議論を行った。当初、労働は1時間程度で終わる予定が4時間程度かかり、13時25分からのランチブレイク、14時45分に再開して16時頃まで議論を行った。その後はリーガル（法的制度的事項）の議論。リーガルの担当官は、労働の議論がすぐ終わると思って外でずっと待っていたが全然終わらなかったようだ。リーガルも1時間程度で終わるはずが19時までかかった。昨日はそれで終り。昨日の午後、SPSの議論もする予定だったが、それができなかったのが今朝はSPSから議論が始まったと聞いている。

全体会議では、ある国から、ホーチミンではルールの議論もするが並行してMAの交渉も進めようとの提案があった。MAはテキストの議論もあるので、各国ともMAの交渉官はベトナムに行っている。各国ともMAの議論、NCMも含めて、広い意味でのMAの議論をバイで進めてくれという話があったようだ。日本も複数の国とバイ協定を始めている。ただし、大江大使もベトナムに行っていないし、大江大使のカウンターパートもベトナムに行っていないので、大江大使がこれまでやってきた日米の事務協定は行われぬ。それ以外の国とのMAの交渉は物品のみならずサービスも含めて精力的に行おうとオープニングセッションで確認された。

労働やリーガルは閣僚会議に上げないような細かい話が多いが、労働だけでも5つくらい課題が残っていた。労働も含めて、ある国が中心になってパッケージ案を作成し、事前に各国に配布していたが、このパッケージ案とは、最終的な着地案のようなもの。労働やリーガルのような大臣に上げなくてもよさそうな課題について事務的な決着案が書かれたものであり、今日の新聞にあった知的財産や国有企業のような難航分野については作られていない。昨日はその着地案をベースに、労働については残された5つほどの論点について議論をしたようだ。どういう論点かはお話しにくいですが、例えば強制労働のようなもので作られた物品の取り扱いなど、いかにも21世紀型の論点について議論がされた。紛争処理（リーガルの一種）の扱いについて労働でも議論されているとのこと。

リーガルは、チャプター横断的な技術的な論点が多いが、各チャプターにまたがっている紛争処理の取り扱いについて、共通の取り扱いができないかリーガルで議論している。それ以外は非常に技術的な論点。これもどこかの国が中心になってまとめたパッケージ案をベースに議論されている。リーガルも労働も結論が出たわけではないが、鶴岡首席は、論点ごとに、いつまで細かい論点についてこだわるのかと問題提起し、議論の方向性としては収斂に向かっているが、全体の物品などが見えていないのでまだ閉めようとは誰も言い出していない。

今日、知的財産分野分野についての記事があったが、知的財産は難航している分野なので記事の内容は事実と反する気がする。

今日は SPS から議論が始まったが、まだ全体の報告を受けていない。前回と同様、易しい分野から議論を始めて、後ろになればなるほど難しいものが議論される。国有企業と知的財産は最終日に予定されている。この 2 つが今のところ一番合意から遠い状況だということ。11 日に鶴岡首席交渉官は 5 か国ほどの首席交渉官とバイの意見交換をした。日米首脳会談の際の大きな進展があったということについて報告を行ったとのこと。あとは、各国の首席交渉官と今後の見通しについて率直な意見交換をした。

(以上)